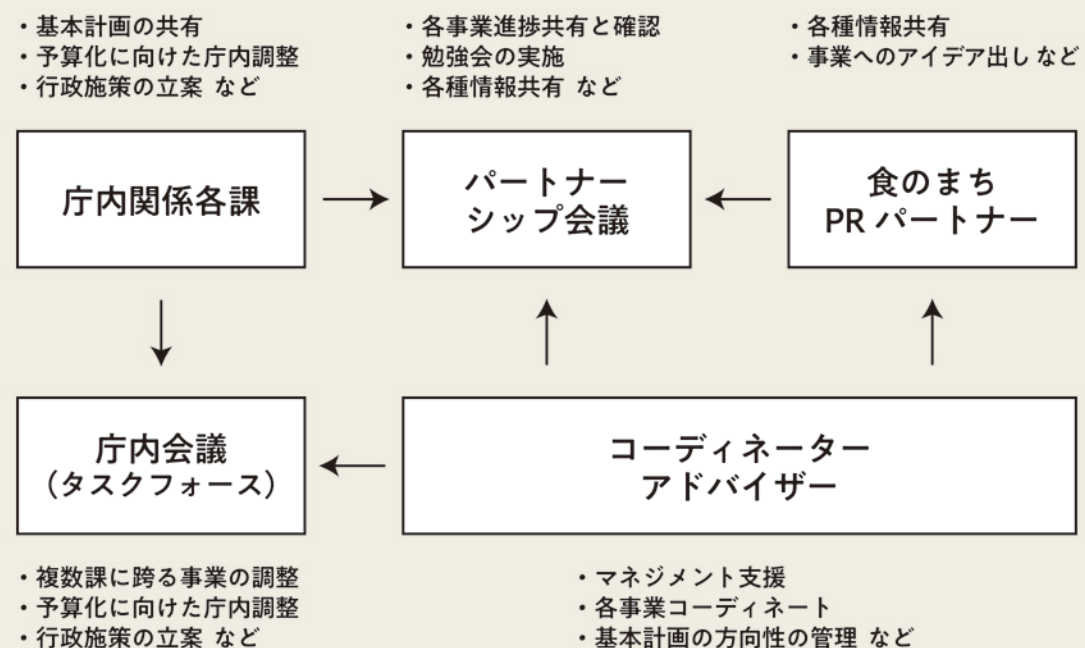


基本計画を推進するにあたっては、多くの事業で複数の部署との協力・連携が必要となっています。また、市、市民、事業者が連携する事業も存在し、官民が連携しなければ実現できないものも含まれます。そこで、部署横断、官民連携を調整する「パートナーシップ会議」や「庁内会議(タスクフォース)」などを設置し、予算化に向けた意見交換や工程共有、勉強会などを行うこととします。



基本計画では、食のまちづくりに対する定性的な指標と定量的な指標の推移を比較して、計画の効果を検証します。

(1) 定性評価

定性的な指標においては、アンケートやヒアリング調査等によって、本市の食のまちづくりに関して市民がどのように感じているかを捉えるものです。「地かえて祭り」など市内で定期的に開催される大規模イベントでのサンプル採取や市の公式 LINE 等でのアンケートなどで測定することが考えられます。

質問事項としては、以下のような内容が考えられます。

- 市が推進する「食のまち」の認知度
- 地元食材を意識して購入している人の割合
- 食に関する職業(農業や漁業など)について関心がある人の割合
- 食を通じた健康を意識している人の割合 など

(2) 定量評価

定量的な評価においては、各事業で数値化できる指標があるものは設定し、その推移を比較していきます。指標数値としては、以下のような内容が考えられます。

- 給食の地産地消率(野菜・果物)
- 直売所の利用者数
- 新規就農者数
- EAT de 健康メニュー参加店舗数 など

いちき串木野市 食のまちづくり基本計画 第2期

